

令和6年度 大田区立調布大塚小学校 自己評価 報告書

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄																						
								評価人数	コメント																					
生予個性別 育未成 社会を 創造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童評価】 ・協働することで考えが深まる 88% ・学年との関りを大切にしている 80% ・「ふりかえり」では、何がわかって、何がわかっていないか、どうするとよいか、を文章や言葉などで表している。87% ・「ふりかえり」の内容を意識して過ごしている。84%	4: 90% 以上	①変革をもたらす3つのコンピテンシー、「新たな価値を創造する力」「対立やシレンマに対処する力」「責任ある行動をとる力」を育成するカリキュラムを教科等横断的な視点でデザインし、取り組んだ。各学年の年間指導計画も、3つのコンピテンシーのどこにつながる学習を考え、色分けすることで教科横断的な視点で授業を捉えることができるようにした。授業においては、今している学習がどの力の育成につながるのかが意識できるようにカードを作成し、活用した。今年度の取組を振り返り、カリキュラムデザインの見直し、修正をしていく。	A	8	・「イノベーションシート」の取組がとても良い。保護者がこどもの良さを認めていると評価している。これはこどもたちにとってとてもよいことだと感じる。 ・校長が行っている指導体制が成果を上げていると評価している。 ・こどもたちが率先して考え、また班を作り意見を交ぜ合わせていることで、自主性、協調性を育むことは大変良いことだと思う。 ・児童評価、保護者評価が80%を超えており、先生たちの頑張り、こどもたちの努力が実っていると感じた。 ・「ふりかえり」をすることで次への意識が高まり、よいと思う。 ・予測困難な未来を生きるためにも、自ら課題を発見し、自分事として考え、他者と協力することはより大切になる。児童は、イノベーションシートの内容をしっかり理解し、日々考えることが重要だと感じる。																				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								【保護者評価】 ・教員は、こどもたちの様子をつかみ、よさを認め、正しい判断ができるよう指導している。83%	3: 70% 以上	②全ての学年で、様々な地域人材、外部機関、団体とのコラボレーションしたカリキュラムを組み、パッケージ化した。また、授業では、毎時間7分間の振り返りを設定し、児童も教員も振り返りが習慣化してきている。 ③各授業において、教員が効果的に情報機器を用いて授業を行うとともに、児童は授業の各段階において情報機器を使い調べたり、まとめたり、発表したりすることを通して情報活用能力を育成している。 ④「イノベーションシート」を活用し、設定した身に付けたい行動に対し、毎月振り返りを行っている。また、年に3回の三者面談で学期の振り返りを児童自ら保護者に説明をし、家庭と連携しながら、次の課題につなげている。今後も継続して行っていく予定である。	B	1															
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。													2: 60% 以上	②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4	②全ての学年で、様々な地域人材、外部機関、団体とのコラボレーションしたカリキュラムを組み、パッケージ化した。また、授業では、毎時間7分間の振り返りを設定し、児童も教員も振り返りが習慣化してきている。 ③各授業において、教員が効果的に情報機器を用いて授業を行うとともに、児童は授業の各段階において情報機器を使い調べたり、まとめたり、発表したりすることを通して情報活用能力を育成している。 ④「イノベーションシート」を活用し、設定した身に付けたい行動に対し、毎月振り返りを行っている。また、年に3回の三者面談で学期の振り返りを児童自ら保護者に説明をし、家庭と連携しながら、次の課題につなげている。今後も継続して行っていく予定である。	C	0									
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																			4	③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4	③各授業において、教員が効果的に情報機器を用いて授業を行うとともに、児童は授業の各段階において情報機器を使い調べたり、まとめたり、発表したりすることを通して情報活用能力を育成している。 ④「イノベーションシート」を活用し、設定した身に付けたい行動に対し、毎月振り返りを行っている。また、年に3回の三者面談で学期の振り返りを児童自ら保護者に説明をし、家庭と連携しながら、次の課題につなげている。今後も継続して行っていく予定である。	D	0			
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	④「イノベーションシート」による定期的なAAR(見直し・行動・振り返り)と三者面談での共有を行っている。	4	④「イノベーションシート」による定期的なAAR(見直し・行動・振り返り)と三者面談での共有を行っている。	1: 60% 未満	④「イノベーションシート」による定期的なAAR(見直し・行動・振り返り)と三者面談での共有を行っている。	D	0																						
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。																														
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																														
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																														
お世個別 お別れた 目をつ 標担な 2うが 材国を 際育都 成市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童評価】 ・地域の方との学習を通して、地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある。78%	4: 90% 以上	①ペアやグループ学習を計画的に取り入れ、外国語教育指導員から学んだ文や単語をアウトプットする機会を設けている。外国語活動ではゲーム要素を取り入れ、楽しみながら学習できるようにしている。今後も継続する。	A	6	・英語の授業により、国際感覚を身に付け、より視野の広い人間になってほしい。 ・すばらしい取組をしていると思う。児童の意識も高いことが分かる。 ・大きな社会の流れを知りつつ、地域で自身がどう関わり、良くしていくかを考えられるようになって欲しい。																				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								【保護者評価】 ・学校は地域資源を活用した学習を充実させている。74%	3: 70% 以上	②道徳の時間に様々な人権課題を取り扱い、学習している。加えて、人権週間には校内人権作品展を実施し、標語や書写作品を作り、互いに読み合うことで人権意識を高めている。 ③総合的な学習の時間などにおいて、国際社会や地域社会の諸問題について調べることを通じて、自分との関連や自分にできることを考えている。また、分かったことや考えたことを発表することで課題と向き合い行動する力の育成を図っている。 ④実際には、どの学年も学校支援地域本部(スクールサポート調布大塚)等と連携して区内資源を活用した地域学習や校外学習の充実を図っている。実践したことや課題を共有し、改善しながら、よりよいものにしていく。	B	3															
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。													2: 60% 以上	②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	3	②道徳の時間に様々な人権課題を取り扱い、学習している。加えて、人権週間には校内人権作品展を実施し、標語や書写作品を作り、互いに読み合うことで人権意識を高めている。 ③総合的な学習の時間などにおいて、国際社会や地域社会の諸問題について調べることを通じて、自分との関連や自分にできることを考えている。また、分かったことや考えたことを発表することで課題と向き合い行動する力の育成を図っている。 ④実際には、どの学年も学校支援地域本部(スクールサポート調布大塚)等と連携して区内資源を活用した地域学習や校外学習の充実を図っている。実践したことや課題を共有し、改善しながら、よりよいものにしていく。	C	0									
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																			4	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。	4	③各授業において、教員が効果的に情報機器を用いて授業を行うとともに、児童は授業の各段階において情報機器を使い調べたり、まとめたり、発表したりすることを通して情報活用能力を育成している。 ④「イノベーションシート」を活用し、設定した身に付けたい行動に対し、毎月振り返りを行っている。また、年に3回の三者面談で学期の振り返りを児童自ら保護者に説明をし、家庭と連携しながら、次の課題につなげている。今後も継続して行っていく予定である。	D	0			
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	④学校支援地域本部(スクールサポート調布大塚)等と連携して区内資源を活用した地域学習や校外学習の充実を図っている。	4	④「イノベーションシート」による定期的なAAR(見直し・行動・振り返り)と三者面談での共有を行っている。	1: 60% 未満	④「イノベーションシート」による定期的なAAR(見直し・行動・振り返り)と三者面談での共有を行っている。	D	0																						
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。																														
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																														
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																														
た一個 め人別 の目基 と標 礎り3 とが 個なる 性力と 能育 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きいく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童評価】 ・学校のきまりを守っている 90% ・体を動かすことが好きです。76% ・教科書を読むなどして、授業でこれら学習することの楽しさをもつようになっている。92% ・教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを振り返るようになっている。78% ・授業では、問題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じる人が多いと思う。88%	4: 90% 以上	①各学級で道徳科を中心に道徳教育を実施した。他にも、あいさつ運動では各学年の目標を設定し、きょうだいたい学年で学期末に振り返りを行うなど豊かな情操や道徳心の育成を図った。 ②習熟度別に適切な内容や進度で授業を進めることができた。問題の考え方を言葉で説明したり、図や表を見せながら伝え合う活動を多く取り入れたりと、理解を深めることができた。復習に取り組むことが少なかったため、今後は「お家の人に分かったことを伝える」「ノートや教科書を見て何を学習したか思い出す」などの復習をすることも習慣化を目指す。 ③各学年の保健授業や全校実施の「早寝・早起き・朝ごはん月間」を通して、正しい生活習慣の知識をつけたり、自分の生活習慣を見直ししたり、生活習慣の確立を図っていた。 ④学期に一度、区教研小中一貫を通して重点目標を設定し、重点目標に沿って情報共有し、日々の授業改善に生かしている。 ⑤各クラスでクラスルームに「予習」「復習」を記載することで、「予習→授業→復習」の習慣化を図った。「教科書を読む」「動画を見る」「教科書を読んで分からないところをつかむ。」等を行うことで、「生分りの状態」で授業に臨んだり見直しをもって授業に臨んだりすることができるようにした。「今日の学習で分かったことを家の人に説明をする。」「類題を解く」等の取組をして、学習内容の定着を図った。「授業で学んだことを意識してもう一度教科書を読む。」「振り返りで書いたことを意識して類題に取り組む」などの課題を提示し、児童に「予習や復習をしてよかった。」と実感させることができるようにしていく。	A	6	・体を動かすことが低いと感じる。 ・児童が前へ前へと進む意欲がしっかりしていると感じる。 ・授業を真剣に聞いている姿を見て感心した。あいさつがきちんとできることも多く、生活リズムも身に付けているように思う。 ・保護者の意識が高く、こどもたちも意欲が高く、努力している姿が分かる。肯定的評価の割合が高い。 ・幼少期は身体全体、指の先まで使ったくさん動かすことが脳の活性化にもつながると思います。あいさつや約束を守る習慣は素晴らしい。 ・身体を動かすことが好きと答えた割合が76%は少し低いと感じる。能力は違ってもいいが、体を動かすことを好きになってもらえるための工夫も必要だと思う。外であいさつができる子とそうでない子がいるのも少し気になる。																				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								【保護者評価】 ・お子さんは、挨拶や約束を守る生活習慣を身に付けている。91% ・お子さんは、早寝早起き朝ごはんの習慣が身に付き健康である。84%	3: 70% 以上	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	3	②全ての学年で、様々な地域人材、外部機関、団体とのコラボレーションしたカリキュラムを組み、パッケージ化した。また、授業では、毎時間7分間の振り返りを設定し、児童も教員も振り返りが習慣化してきている。 ③各授業において、教員が効果的に情報機器を用いて授業を行うとともに、児童は授業の各段階において情報機器を使い調べたり、まとめたり、発表したりすることを通して情報活用能力を育成している。 ④「イノベーションシート」を活用し、設定した身に付けたい行動に対し、毎月振り返りを行っている。また、年に3回の三者面談で学期の振り返りを児童自ら保護者に説明をし、家庭と連携しながら、次の課題につなげている。今後も継続して行っていく予定である。	B	3													
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。															2: 60% 以上	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4	③各授業において、教員が効果的に情報機器を用いて授業を行うとともに、児童は授業の各段階において情報機器を使い調べたり、まとめたり、発表したりすることを通して情報活用能力を育成している。 ④「イノベーションシート」を活用し、設定した身に付けたい行動に対し、毎月振り返りを行っている。また、年に3回の三者面談で学期の振り返りを児童自ら保護者に説明をし、家庭と連携しながら、次の課題につなげている。今後も継続して行っていく予定である。	C	0							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																					4	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4	④「イノベーションシート」による定期的なAAR(見直し・行動・振り返り)と三者面談での共有を行っている。	1: 60% 未満	D	0
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。																											
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	⑤学習の振り返りや「予習」「復習」に取り組むことで学習改善に生かせるようにしている。	4	⑤学習の振り返りや「予習」「復習」に取り組むことで学習改善に生かせるようにしている。	3	⑤各学級で道徳科を中心に道徳教育を実施した。他にも、あいさつ運動では各学年の目標を設定し、きょうだいたい学年で学期末に振り返りを行うなど豊かな情操や道徳心の育成を図った。 ②習熟度別に適切な内容や進度で授業を進めることができた。問題の考え方を言葉で説明したり、図や表を見せながら伝え合う活動を多く取り入れたりと、理解を深めることができた。復習に取り組むことが少なかったため、今後は「お家の人に分かったことを伝える」「ノートや教科書を見て何を学習したか思い出す」などの復習をすることも習慣化を目指す。 ③各学年の保健授業や全校実施の「早寝・早起き・朝ごはん月間」を通して、正しい生活習慣の知識をつけたり、自分の生活習慣を見直ししたり、生活習慣の確立を図っていた。 ④学期に一度、区教研小中一貫を通して重点目標を設定し、重点目標に沿って情報共有し、日々の授業改善に生かしている。 ⑤各クラスでクラスルームに「予習」「復習」を記載することで、「予習→授業→復習」の習慣化を図った。「教科書を読む」「動画を見る」「教科書を読んで分からないところをつかむ。」等を行うことで、「生分りの状態」で授業に臨んだり見直しをもって授業に臨んだりすることができるようにした。「今日の学習で分かったことを家の人に説明をする。」「類題を解く」等の取組をして、学習内容の定着を図った。「授業で学んだことを意識してもう一度教科書を読む。」「振り返りで書いたことを意識して類題に取り組む」などの課題を提示し、児童に「予習や復習をしてよかった。」と実感させることができるようにしていく。	D	0																						
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。																														
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																														
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																														
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																														

<p>学個別力目標 教師力を向上させます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>【児童評価】 ・授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明している。77% ・授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っている。86% ・「ふりかえり」で考えたこと(もっと知りたいこと)の解決に取り組んでいる。77% 【保護者評価】 ・教員は、子どもたちにとって分かりやすい授業をしている。86%</p>	<p>4: 3: 2: 1:</p>	<p>①OKJ(教えて考えさせる授業)により、インプットとアウトプットのバランスの取れた授業を目指した。「たしかめ」でのペア学習による理解確認、「チャレンジ」でのグループ学習による協働的な学びによって1時間の授業をデザインしてきた。校内研究の研究授業、学期に1回の観察授業等で自己の授業を振り返り改善を図っている。隔週火曜日にミニ研の時間を設定し、授業について考える時間の確保している。今後も日常的に授業について相談し合える環境を作り、授業の充実を図っていく。 ②教員それぞれが持つ知識や経験、生活指導やミニ研、OJTの時間を活用して相互に学び合いを行っている。新教科「大田の未来づくり」の一環としてせせらぎ館・田園調布グリーンコミュニティをハブとしたコラボ授業単元開発を全学年で行った。高学年は、他にモインフィアムジャパン、共同通信社、羽田イノベーションセンター、青少年など多種多様な地域資源の活用を意識し、単元計画を行っている。コラボ授業実施後は連携先と必ず振り返りを行い、次年度への改善を図っていく。 ③週時程、行事の見直しを行い、放課後に授業準備や学年間で情報共有を十分にとることができるように業務改善を行っている。児童理解を深め、質の高い授業につなげている。 ④OKJにより深い理解を伴った知識・技能の獲得を目指し、ミニ探究では、自分で課題を選択し、獲得した知識・技能を活用して追究するという構成で単元を構成した。今後も、児童の「振り返り」に記載された「もっと知りたいこと」を生かした課題を設定し、探究的な学びの充実を図っていく。</p>	<p>A B C D</p>	<p>6 2 0 0</p> <p>・積極的に手を挙げて発言することも多く授業に活気があり、教師の授業の進め方がよいように思う。 ・子どもたちの努力がもう少しという点もあるが、それを意識していることが素晴らしいと感じた。保護者からの評価が86%もあり、理解されていると思った。 ・先生方それぞれ授業を工夫されていてとてもありがたい。 ・授業が「わかる」はとてほしい。答えだけでなく、考えることも重要なのでバランスも難しいと思う。</p>
<p>た自個め別の目標 5をいきいきと生きる</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満の教員が回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満の教員が回答した。</p> <p>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>【児童評価】 ・学校が楽しい 80% ・困っているときや悩んでいるときに相談する人がいる 86% 【保護者評価】 ・お子さんは、友好的で親和的な友達関係を築いている。88% ・教員に子どもの学習面や生活面のこと相談できるような、信頼感や安心感がある。80%</p>	<p>4: 3: 2: 1:</p>	<p>①【取り組み】 ・月1回以上の特別支援校内委員会を行い、児童の情報共有及び支援体制について話し合った。 ・巡回心理士や特別支援教育アドバイザーに児童観察をしてもらい、支援方法や今後についてのアドバイスをもらい、全教員で共有した。 ・女子特別支援学校のセンター機能を活かし、児童観察のうえ教員への支援方法のアドバイス、特別支援教育研修会を行い、教員の特別支援教育に関する資質・能力の向上を図った。 ・毎週、特別支援教室での指導、支援について指導報告を作成し、全教員にデータで送ることで情報共有を図った。 【改善案】 ・特別支援教室での児童の様子や指導については指導報告とともに担任と直接話し合うことで連携を図っていたが、今年度高学年が専任担任制になり、担任と直接話し合うことは連携が十分ではないことがあった。高学年担任、専任、巡回教員が直接話し合う時間を設けることが必要だと感じた。 ②全教員が早期発見の重要性への理解を深め、経験のない見逃さず速やかに共有し、対応する仕組みがしっかりとできたので継続していく。また、校長のリーダーシップにより実施した6年生との「サークル対話」や心身に不安定な児童との距離を教員による面談が、児童との信頼関係を築くことや思いを傾聴し合うことの価値の認識につながったと評価できる。こうした取り組みが、いじめの未然防止につながるという位置付けで、来年度以降も改善しながら継続していく。 ③【取り組み】 ・学校内での困りごとや、家庭内での困りごとの相談を受けた際、積極的にスクールカウンセラーとの面談を進めてきた。 【改善案】 学校では対応しきれない事案についてはSSWにつなげられるよう、資料の準備等今後行っていく。 ④生活指導の記録や教員の各学級の見回りなどから児童の様子や情報を得て、支援が必要な児童へのアプローチを担任と相談している。また、毎月の特別支援校内委員会の記録を教員間で情報共有している。各学級で児童にほっとルームの存在や意味を担任から説明し、児童の間で認知が広がっている。必要に応じて利用する児童がいる。</p>	<p>A B C D</p>	<p>8 1 0 0</p> <p>・困っている時に相談できることの評価が高めで安心した。 ・子どもたち同士がとてほしい。困ったことがあれば、すぐ相談できる「信頼関係を大切にしたい」。 ・児童評価で学校が楽しい、困っている時等相談する人がいるが80%、86%はすごいと思う。残りの20%くらいの児童への対応を考えていけばよいと思った。 ・子ども同士、子どもと先生、とても良い関係性が築かれていると思う。 ・子どもたちが楽しいと思える学校であってほしい。困っていることを相談する相手は学校だけでなく、家庭も大事。</p>
<p>安柔個心軟別なで目標 育造6環的なを学ぶ空間と安全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>【児童評価】 ・自分の命は自分で守る行動ができていて90% ・学校や家庭での約束を守って学習用タブレットを使っている 88% 【保護者評価】 ・学校は施設や設備が安全で清潔な環境維持に努めている 81% ・学校は学習用タブレットを効果的に活用して授業を進めている 74% ・学校は、事故や問題発生時に、問題や課題を解決するために、適切に対応できている。71%</p>	<p>4: 3: 2: 1:</p>	<p>①生活科、社会科、総合的な学習の時間を中心に、地域の伝統・特色を生かした学習を実施している。また、毎月、安全点検を実施し不備に对应するとともに、職員・児童による清掃の実施により、安全・安心な学習環境を整備している。 ②毎月の安全指導と避難訓練を通して、児童や教員の危険や災害に対する意識を高めている。また、警察署や消防署と連携をして不審者訓練や消火訓練を行う。 ③校内研修会やOJTなどを通して、学校組織全体で学習用タブレットの効率的・効果的な活用について研修を進めている。また、効果的な使い方について、日常的に情報交換や情報発信を行い、使い方を共有している。</p>	<p>A B C D</p>	<p>7 2 0 0</p> <p>・ICT教育環境は区内でも有数かと思う。これからも力を入れてほしい。 ・学校の施設自体は古く、老朽化が進んでいるが、清潔感を維持していると思う。タブレットの活用について、分からないことを調べることも大切だが、インターネットの情報だけを使用しないよう気を付けてほしい。 ・子どもたちが自分の命について考えて行動していることへの90%は素晴らしいと思う。保護者も学校に対して安全、清潔な環境維持に対して81%は努力が実っていると思う。問題や課題を解決する対応は学校側の今後の課題として努力すればよいと思った。 ・タブレットの有効活用ができていると思う。 ・「自分の命は自分で守る」はとても大切だと思う。</p>
<p>学地学個別校域をこまに地域核連携協働による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>【保護者評価】 ・学校からの情報発信は分かりやすい 78%</p>	<p>4: 3: 2: 1:</p>	<p>①コミュニティスクールとして、毎月一回学校運営協議会を開催している。本校の取組を委員に説明し、地域と学校が、子ども一人一人が充実した学びの実現に向けて連携を図っている。 ②今後も登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力を得ながら実施していく。 ③道徳授業地区公開講座・体育・健康教育授業地区公開講座の保護者向けの講演会の時間を、放課後から2校時に変更したことで、保護者の参加が増え、家庭教育につなげられるようにした。</p>	<p>A B C D</p>	<p>7 2 0 0</p> <p>この目標については児童と保護者の評価に差があるように感じた。問題発生時の対応は難しく感じないと感じる。日々学校、先生方は最大限の対策を色々と講じていると思う。それが保護者にももっと伝わるとよいと思う。 ・地域との様々な取り組み姿勢が評価できる。 ・これからも地域の代表として学校との連携、協働を進め、子どもたちの成長に関与していきたい。 ・地域との連携は素晴らしく、学校運営協議会委員の皆様からの積極的な取組に感謝している。 ・横の繋がりがもたらすと良いと思う。特にPTA保護者の交流が気になる。 ・情報発信の難しさは理解できる。情報の受け手が受け取りやすい方法での発信が重要だと思う。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す